

新たな広聴の仕組み実践プロジェクト第4回検討会

平成 19 年 10 月 31 日 19:00 から 21:00

参加者：浦田（特定非営利活動法人いせコンビニネット）、中盛（W.T.Aまちづくりセンター）、岩脇（津市市民活動センター）、辻（広聴広報室）、川村、大山（サポート委員）、松野、明石（NPO室）

前回のふりかえり

- ・ 前回の意見の整理と確認

検討会の議事の公開

- ・ 検討結果と、その結果に至った理由がわかるよう議事概要を作成して公開することを確認。

仮説と効果

- ・ 課題と仮説と効果について説明

課題 1：議論が逸れる 仮説：コーディネーター、アドバイザーを入れて議論を進める 効果：集中した議論

課題 2：不毛な議論となる 仮説：参加者にテーマを決めてもらい議論型で運営する 効果：議論の質の向上

課題 3：議論できなかった意見は不満足感が残る 仮説：ホームページで知事の回答を掲載する 効果：不満足感の解消

課題 4：参加者または県の一方向的な議論となる 仮説：双方向の参加型運営を行う 効果：参加者満足の向上

課題 5：堅苦しいイメージがある 仮説：知事の人となりを紹介する。BGM、看板、お茶・お菓子、中高生の参加等による雰囲気づくりを行う 民間らしさ（わくわく感）

仮説と効果について意見交換

- ・ コーディネーターとアドバイザーの役割分担

アドバイザーの役割はその分野の専門的な助言を行うことだが、分野も多岐に渡るので、知事の方が専門知識を持っているのではないか。

- ・ 議論するテーマの選定

意見を選ぶということは、事前に知らせてないので、知事との一問一答をやったあと、引き続き議論を深めたい意見を、会場の参加者に決めてもらう。できるだけ多くの意見を拾い、深く議論ができるよう、アイスブレイクを入れて盛り上げる。

- ・ トークの運営

発言時間のルールを作る。コーディネーターが質問を要約し、回答のポイントを明確にすることで、知事の回答も効率よく進める。中高生の参加は、時間的に難しい。

- ・ 研究員の参加

議論の仕掛け人のイメージであるが、県側の立場での参加と誤解される可能性がある
ので参加しない。

- ・ 選ばれなかった意見に対する知事の回答
ホームページ上の映像での回答は、意見の数を見ながら編集に工夫が必要である。
- ・ 雰囲気や和らげる工夫
BGMは雰囲気を和らげるために、開始前や休憩時間に流す。お茶やお菓子を出すの
はそぐわない。花の設置は予算的に難しい。BGMのみで雰囲気づくりを行う。
知事の紹介は、政治活動ととられる可能性がある。
- ・ オリエンテーション
趣旨説明は、「これは実験です。もっと良くするために発展形をみんなで考えましょ
う。これまでのトークはこうでした。今回は・・・です。」と呼びかける。
- ・ アンケートの内容や詳細な時間設定は、意見が出揃ったところで、事務局と広聴広報
室で詳細を決め、メーリングリストで共有と意見交換を行う。

次回

12月17日19:00～